

蝦夷（北海道および南千島）の火山の噴煙史 - 古地図を利用した噴煙史の構築 -

Volcanic clouds activities records of Hokkaido and southern-Chishima Islands, based on Japanese antique maps of Edo Period.

及川輝樹 [1]

Teruki Oikawa[1]

[1] 産総研・地質情報

[1] AIST, GSJ

古地図・絵図は噴煙活動史の構築に有力な情報を与える。そこで古地図・絵図を基に江戸時代後半における千島を含む北海道の各火山の噴煙史を編んだ。調査の結果、噴煙が描かれている古地図は以下のものがある。「蝦夷掌之図」(AD1860 成立)、「渡島半島図」(AD1857 成立)、「蝦夷海陸路程全図」(AD1855 成立)、「蝦夷全図:改定」(AD1854 成立)、「蝦夷闔境輿地全圖」(AD1854 成立)、「天保国絵図」(AD1838 成立)、「蝦夷地全図」(AD1830 頃成立)、「伊能図大図」(AD1800 測量)、「名山図会」(AD1802 スケッチ)、「松前蝦夷地嶋図」(AD1780-98 測量, AD1808 成立)。これらの古地図からおよそ AD1780~1860 の噴煙活動が復元できる。

噴煙活動の確認された火山は、恵山、北海道駒ヶ岳、有珠山、渡島小島、渡島大島、雌阿寒、雄阿寒、択捉焼山、茂呂世岳である。このうち渡島小島と雄阿寒は活火山でない。両火山は新鮮な火山地形を残すので、噴火活動史の再検討が必要であろう。また、恵山、雌阿寒、択捉焼山、茂路岳は活火山であるが、江戸時代に活動記録はない。さらに、渡島大島は 1850 および 60 年代の古地図に噴煙が描かれているが、この時代の噴火・噴煙活動の文章記録は知られていない。これら火山についても噴火活動史の再検討が必要であろう。火山活動の将来予測のためにも、これら噴煙の描かれた火山について最近数百年程度期間の高分解の噴煙および火山活動史の構築が必要であろう。